

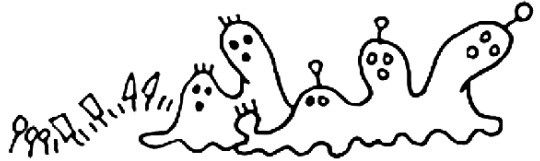
全国の対話と物議の土壌をかもすニュースをお届けします

かもす通信

はたらく女性の全国センター（ACW2）



イラストレーション/ナガノハル



ACW2の活動と、会員の方の声をお届けします



もくじ

-
- 02 | コロナ禍 青少年オリンピック記念センター 相談員トレーニング開催中
 - 03 | 私は彼女たちを責める気になれない
 - 04 | 近況報告 母のこと
 - 06 | ひとことメッセージ
 - 08 | 小グループ活動の連絡先
 - 09 | 活動報告(4月~7月)
 - 10 | ホームヘルパー国賠訴訟 再スタートします。
 - 11 | 対話の土壌をかもす講座 受講生募集
 - 12 | 編集後記

コロナ禍 青少年オリンピック記念センター 相談員トレーニング開催中

相談員トレーニングは、2020年コロナで中断、オンライン開催となりました。

しかしロールプレイで学ぶことの多いトレーニングの ZOOM 開催は困難を極めました。

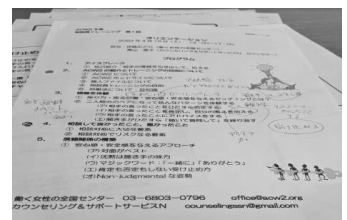
そのため 2021 年は休止、2022 年コロナ感染対策しながら 40 人部屋に 10 人の定員で換気を良くして何とか始めました。今回は土曜の午後 13:00 ~ 17:00 の 6 回開催です。

久々のリアル対面で学ぶことがいかに貴重なことなのか実感しています。

参加者の感想から

アンケートから公開してよいという方だけの下記感想をシェアしたいと思います。

- ロールプレイに多くの時間を使ってもらえて良かったです。
- 知識ではなく体感するのとでは得られるものが違うと思いました。
- ロールプレイをしていて、自分が話している側の立場にいるにも関わらず、三番目の対話形式(積極的にアドバイスを相手から受け取る)を「楽」と感じたことから、私は自分を主体とすること、及び自分を主体とした対話スタイルが苦手であることが良くわかりました。
- これからこのメンバーでワークをやっていくと思うので時間的にゆとりがあれば円になって最後の気持ちを共有出来たら嬉しいです。
- 高山先生のお話が分かりやすく気持ちに入ってきました。
- 相談員が「疲弊」しないために「意識」すること、自分が生きやすくなる。という事が心に響きました。
- 「受け止める」と「受け入れる」の違いも良くわかりました。
- 相談者と「一緒に」という事は、これまでも教わってききましたが、ロールプレイを通して実際に感じる事ができました。
- オンラインとリアルの違いの話はとても参考になりました。
- ケーススタディもう少し伺いたかったです。
- 新しい学びがありました。高山先生のお話はとても楽しく、メンタルカウンセリングの要素も多くあり大変参考になりました。



私は彼女たちを責める気になれない

まゆみ

この春、映画界での性加害の告発が話題となった。その報道に対する反応の中に「応じた」と被害者を責めるようなコメントがあった。でも、それは本当に「選択」だったのだろうか…。

13年ほど前、私は、当時、事務局員として働いていた某業界団体で、その団体のトップの男性から「(性的な目的で)執拗に誘われ」た。私は応じなかった。その結果、数年間にわたって組織ぐるみで嫌がらせを受け、解雇された。つまり、応じても応じなくても、被害者には危険な道しかない。私たちには選択肢など存在しないのだ。私はこの被害が原因で、13年経った今でも、1年の半分を抑うつ状態で何もできず、寝込んだままで過させられている。

「応じなかった」私は、執拗な嫌がらせにより、病気になった。厚生労働省に労災申請をし、3次審査までの4年間、何度も寝込みながら、追体験になるヒアリングや書類提出に応じたが、救済されなかった。その間、担当職員や担当有識者からの嫌がらせや明らかな怠慢もあった。

その後、問題を東京都の労働委員会に出したが、打合せで、“労働者側”委員からの暴言までであった。その都労委で、最後のスピーチをすることになった日、私は「喪服」を着て行った。ジャッジする側(被害者側、加害者側、公益)の3人ともが年配の男性だった。花柄のワンピースなどで媚びたくはなかった。凜とした服を着て行きたかった。そして、今回の被害により、病気にされた上に何の補償もなく社会に放り出される私が、今後、この被害のせいで、生きていけなくなることを具体的にイメージしてほしかった。即死でないだけなのだと。「このことを重く受け止めてください。私はこれからじわじわと殺されていくだけです。」と、喪服の私は、彼らの前で5分ほどのスピーチをした。会場が静まりかえり、しばらくして公益の役割の大学教授が、「これから、私たちは真摯に向き合っていかなければいけない」と言った。私は、彼が“これから”と言ったのを聞き逃さなかった。私の事件には「真摯に向き合っていなかった」ということだ。おそらく、女がセクハラと言っているだけと軽くあしらっていたのであろう。しかし、私は彼に“言わせた”。思わず言ったからこそ、彼が気づきを得たのも事実だと思う。

その後、思いがけず、海外のセレブの方々が性暴力被害を告発する運動に黒い服を選んだ。同じ方法を選択したことが嬉しかった。孤独だった私が、たくさんの被害当事者とつながった。私が喪服を着た翌年、日本でも、性暴力被害に関する院内集会の参加者が黒い服を着た。

近況報告

母のこと

なかばみちこ

母が倒れた。2022年5月の連休中のことだ。電話に出ないのを心配して妹夫婦と様子を見に行き、1週間以上飲まず食わずの脱水状態の母を発見して、救急搬送となった。検査を受けた結果、硬膜下血腫を何度も起こしていることがわかったけれど、緊急性はないと数週間で退院させられた。とてもそのままひとり暮らしには戻せないの、リハビリ施設(老健)に入れる手続きをしたが、入所という段になって、認知症で危ないからと追い返された(この話、もっと語りたいけど割愛)。コロナのため面会できず入院中の母の様子がわからなくて、入所を拒否されるような状態になっているとは思っておらず、呆然としながら母を連れて実家に戻った。そこから1週間、最初は1人で、後に妹と2人で在宅介護し、ケアマネージャーに緊急の受け入れ施設を手配してもらい、その間に行き先を探した。倒れているのを発見してからちょうど2ヶ月後、母を有料老人ホームに入所させた(ちなみにこの日、職場の春闘は妥結した。私は組合の委員長なのだがこの話も割愛)。

この話のハイライトは、在宅介護中、夜中に妹と洗面所をそっとのぞくと、鏡に向かい帽子の代わりにオムツをかぶっている母を目撃することになった場面だ。いや、まだ私が1人で看ている時に、母が仏壇の鐘を打ち鳴らし「助けてー、閉じ込められているー」と外に向かって叫んだ時かも知れない(近所の人に110番された)。もしくは、この世で最も重要なのは「東」だと力説する母の話が意味しているのは麻雀、と気づいた妹と私が「ひっ」と声を漏らしつつ下を向いて笑いをこらえた瞬間かも。

ほかにもまだまだある。

渦中にいる時は、身近すぎる地獄に頭を抱えしゃがみ込んだりもしたけれど、とりあえず面白いと思うことにした。面白がると、けっこう気が楽になった。外に向かって「助けてー」と叫んでいる母に、「もっと面白いことしないと誰も助けに来てくれないよ」と言ったこともあった。鬼のような娘だ。

しかし、老健から追い返されて、自宅に戻った母が、自分のベッドでほっとしているのを見た時には、私は、ここで自分が母の介護をしよう、と考えたのだ。妹は協力できないと突っぱね、パートナーは「お母さんのためにすべてを捨てることになるぞ」と怒った。みんな冷たい

なア、とその時は思ったのだ。が、その後、母はみるみる壊れていき、外側は母でも中身はインベダーに乗っ取られたかのように、先に挙げたような心に残るエピソードを量産し始め、母のために今後の人生を使おうなどという私の甘い感傷は、あっという間に吹っ飛んだ。今となっては、あのような悲愴な覚悟をしたことに驚きを感じるが、妹はしばらくの間、私の改心を疑い、いつまた「やっぱり在宅介護する」と言い出すかとふあんだったようだ。

母を見た1週間で、1度だけ自分の家に帰ってシャワーを浴びた。すぐに妹から呼び出しの連絡があり、食事もせずにもた電車に乗った。車窓から外を見ながら、私たちの母もまた毒親だったのだと突然思った。毒親の定義をわかっていないが、そう思うことで腑に落ちるものがあった。私たち姉妹は、ずっと母の支配下にあった。厳しく躰けられたというのではないが、何かを選ぶ時決める時、私たちは母の顔色をうかがわずに判断することができず、また母に内緒で決めるようになってからは、常に後ろめたさがつきまとった。私たちが成人し独立し、経済的に母を支えるようになって、ようやく母の支配力は弱まったのだが、しかし今や、母は己の欲望を何の躊躇いもなくさらけ出すものと化し、再び娘たちをコントロールしようとしている。怖い。

だけど母の支配の手は、もう私たちには及ばない、と、母を老人ホームに入れた今、私は何度も自分に言い聞かせている。奪われたマンションを取り返しに行こう、と電池の切れた懐中電灯を振り上げ娘たちの前で氣勢を上げる母に、ああ母はこのチームのリーダーだったなと思った。でももうほかのメンバーはリーダーの言に従わず、ぶーっと吹き出しながら、ここがそのマンションなんだけど、と言うだけだ。オムツをかぶっている母は、鏡の前でうっとりしていたと妹は言う（たしかにその時の母はぞっとする美しさで、妹がいなければ私は写真を撮っていたと思う）。でもまた私には、それが古いアメリカのイラストにあるみたいな「インディアン酋長」の真似をした子どものようにも見えたのだ。そしてトンテントンとステップを踏みながら、母は母というステージから退場していった、というイメージを、私は自分の中に定着させつつある。

薬のせいでぼんやりしている母が、大人しく老人ホームに入ったのを見届けて、私たち姉妹は挨拶もせずにも帰った。現在の母（もしくは母の皮をかぶったインベダー）は食欲旺盛だそうで、長生きする予感しかない。しがらみも気づかひも遠慮も脱ぎ捨て、家事からも家庭からも家族からも解放された自称18歳。コロナが収束して面会できるようになった時、母には何が残っているのだろう。私たち娘は、どう振る舞ったらいいのだろう（妹はもう会いたくないと言っている）。今、そんなところです。



ひとことメッセージ

「私は彼女たちを責める気になれない」を書いたまゆみです。2017年春、不本意なまま終結したその事件に取り組んでいた8年間、「後に続く女性たちに少しでも道がつかれたら」と、それだけは思っ取り組んで来ました。終結して5年経ち、皆さんに初めて報告できました。特殊な職場だったので、理解が得られにくく、勝っても多くの人を救うことのできないので、裁判までは進みませんでした。

加害当事者は高校の教員で、無事に定年まで働けました。私は、相変わらず無職で、1年の半分は寝込みながら、父を看取り、母の介護をしています。(まゆみ)

今年の9月27日は父の三回忌です。国葬にするお金があるなら、使うべきところはいろいろあると思います。(小夏)

職場に挨拶しない人がいます。私が「おはようございます」と言っても、その人は「おはようございます」を言いません。私だけではなく、他の人にも挨拶しません。仕事で必要なときやその人が話したいときだけは話してきます。なんだか気分良くないです。いつになるかわかりませんが、「挨拶聞こえてますか、なんでおはようございます言わないんですか?」と、その人に聞いてみるつもりです。(ヒナコ)

時々、お客様相談室に電話をして「この商品のここがいい」「おかげさまで便利に使っています」と感謝の言葉を伝えています。女性が多い部署なので、いい言葉も耳に入れてあげたいなと…。(ちなみ)

ブラをせず夏を過ごすために私が選んだ方法は、首からタオルを下げる。(ひびき)

夢は海外移住です。若い頃に海外旅行したかったです。親にピアスを開けること、車の免許をとること、海外旅行を禁止されていました。40代の今は親に禁止されてなくてもできなくなりました。

ピアスは開けました。(とも)

東京都の千代田区男女共同参画センターで『男女共同参画川柳』を募集していました。どんな作品が入賞するのか楽しみです。(みかん)

昨年10月からコンポスト(生ごみ堆肥づくり)を始めました。

きっかけは、facebookで、コンポストが地球温暖化防止に役立つということを知ったからです。

コンポストを始めて以来、ほとんどの生ごみは捨てていません。

毎日、生ごみを入れてかき混ぜなければならないので、ペットを世話しているようなものです。

コバエが発生したり、水アブの幼虫もいたりとなかなか困難も多いのですが(笑)

コンポストを使ってのベランダ菜園も楽しんでいます。

コンポスト菜園の楽しいところは、種もまかないのに突然、植物が芽を出すところです。

(生ごみに入れていた、種が生きていることがあるのです!!)

現在、突然、芽を出したゴーヤに実が4本も育っています。

LFCコンポスト<https://lfc-compost.jp/>の基材を使っているのですが、毎月お金がかかるというのが欠点ですが一つの趣味だと思っています。

「世話をすること」や「緑とふれあうこと」が私の心の安定にも役立っているように感じる今日この頃です。(ほりゅう)

初めて漬けた梅干しは、激うまでした。梅に18%の塩をかけ重石をのせて1ヶ月後、取り出して2日間干しただけ。残り汁もうまいのでドレッシングの材料に。(さのよ)

公立の健康センターで「栄養相談」「運動相談」を体験しました。密を避けて健康のために片道20分歩き、途中、菖蒲も鑑賞してご褒美気分でご相談を受け、無料で充実した休日となりました。(MK)

あーもう、やだやだ！ 価値を教え込む教育、政治と宗教の癒着、差別の煽動。格差を作り、実質賃金を減らし、生活保護費を下げ、弱い立場に落とした人々を作り切り捨て、公金を中抜きする。大量生産、大量消費、大量廃棄、資源の収奪、戦争ビジネス、家父長制、男性優位主義、メンツ、世界中の権力者たちの覇権争い、環境破壊…。
ダークサイドに堕ちないように、ひとまず自分のケアをしよう。(HIBIKI)

メッセージ募集の呼びかけに応えてくださったみなさん、ありがとうございました。
ひとことメッセージはいつでも募集しています。みんなに聞いてみたいテーマも。
おひとり1つといわず、いくつでもお送りください。

宛先▶tsushin@acw2.org

小グループ活動の 連絡先

事務系小グループ

- ホットライン……………hotline@acw2.org
- 講座など共育……………Education@acw2.org

運営系小グループ

- 連絡調整……………office@acw2.org
- 事務・会計……………Administration@acw2.org
- かもす通信・広報……………tsushin@acw2.org
- 協同組合(案)検討……………FY@acw2.org

会員相互交流グループ

- 読書会……………bookdiscussion1@acw2.org
 - 性と自分を語る会……………sexushariti@acw2.org
 - ちまちま手芸の会……………join@acw2.org
- (他、準備中)

小グループ活動への参加や設立ほか、さまざまなお相談は、
連絡調整グループ→ office@acw2.org (佐野)までご連絡ください。

活動報告 (4月~7月)



4月2日(土)	会計
4月14日(木)	ZOOM 読書会 ケアするのは誰か
4月16日(土)	第1回 相談員トレーニング 受講生 9人 オリピックセンター
4月17日(日)	会計
4月18日(月)	ホットライン相談員 振り返りの会
4月29日(金)	ZOOM 手仕事の会 5人
5月15日(日)	性と自分を話す会 ZOOM 4人
5月20日(金)	会計
5月21日(土)	第2回 相談員トレーニング 受講生 9人 オリピックセンター
5月25日(水)	フリーライターAさんセクハラ・パワハラ・報酬不払い裁判 東京地裁 原告勝訴
5月26日(木)	ZOOM 読書会 第1回 アダムスミスの夕食を作ったのは誰か 9人
6月2日(木)	ZOOM 手仕事の会 5人
6月4日(土)	協同組合検討会 3人
6月10日(金)	会計
6月14日(火)	フリーライターAさんセクハラ・パワハラ・報酬不払い裁判 原告勝訴確定
6月18日(土)	第3回 相談員トレーニング 受講生 9人 オリピックセンター
6月23日(木)	ZOOM 読書会 第2回 アダムスミスの夕食を作ったのは誰か 9人
6月29日(水)	会計
7月2日(土)	岡山女性フォーラム 「私がホームヘルパー国賠訴訟を闘った理由」 伊藤講演
7月16日(土)	性と自分を話す会 ZOOM 4人
7月19日(火)	会計
7月19日(火)	公務非正規全国ネット(はむねっと) 2022年調査報告公表
7月20日(水)	ZOOM 手仕事の会 6人
7月28日(木)	ZOOM 読書会 第3回 アダムスミスの夕食を作ったのは誰か 9人
7月31日(日)	オンライン女性労働問題研究会 「ケア労働者の賃上げ」は本当か?
毎月 5, 10, 15, 20, 25, 30 日	はたらく女性の全国ホットライン 有料相談 2回

ホームヘルパー国賠訴訟 再スタートします。

伊藤

体感温度 40 度の酷暑の上にコロナ感染拡大で訪問介護の現場は戦場のような状態です。先日テレビで裁判原告の一人の藤原のかさんの職場が放映されました。高齢者もヘルパーにもコロナ感染者がたくさん出ている中で交代要員をあてがうこともできず、「サービスを中止にせざるを得ない」状況であると事業所所長さんが訴えていました。

私自身も酷暑でマスクを外しても息ができない。どんなに注意していても 1 日 2 時間を超える炎天下の移動時間で命の危険すら感じています。「新しい資本主義」をうたい文句に国債発行で保育・介護職の 9000 円の賃上げが実施されたとニュースでは言われています。実際は基本給の賃上げはできていない職場がほとんどです。その理由は 10 月からは国費は出さない。利用料金の値上げで賄えという方針で高齢者の負担で賃上げを維持しろというとてもないものなのです。小さい事業所はバタバタ倒産しています。

私たちは、介護の仕事に生産性、効率性を持ち込む国の政策に異議を唱えて「人件費は別建て、補助する」ように問題提起しています。裁判にご注目ください。

第 8 回裁判日程

2022 年 8 月 23 日 (火) 14 時 30 分から
東京地裁 709 号法廷

裁判終了後 衆議院第 2 第 8 会議室で
ホームヘルパーを裁判に関する会議

訪問ヘルパー原告 A のある一日



ホームヘルパー国賠裁判を支援する会

事務局

〒171-0014

東京都豊島区池袋 4-12-26 AKO 介護支援センター気付

<https://helper-saiban.net/>



対話の土壌をかもす講座

2022年11月20日～2022年3月19日
(全5回)

受講生募集

参加費 2,500円
定員10名

◆オンライン「Zoom」にて開催

自分を大切にしながら人とのつながりを作る方法
「かもすワークショップ」を一緒にやりませ

「対話の土壌をかもすワークブック」を使んか？

い今年もワークショップをやります。

コロナ禍でも人とつながりあおう。

今年は自分を大切にしながら人とのつながり
を作る方法について学びます。

- ・料金は、分割支払可(要相談)
- ・非会員の方(別途テキスト代500円)

第1回 心身のセルフケアで 自分を大切にする



開催日 11/20 (日)
14:00～17:00

話し合いのグランドルール
セルフケアの仕方を学びあう

はたらく女性の全国センター 放送テーマ
E: 「私」をつないで帆を上げよ！
互いに生きのびられるACW2へ
2020年2月16・17日、オンラインセンター

第2回 自分の良いところ探し



開催日 12/18 (日)
14:00～17:00

「長所」と「短所」を
考える

第3回 自分の中の力を知る



開催日 1/15 (日)
14:00～17:00

「Power Flower」を作成

第4回 人の話を良く聴く



開催日 2/19 (日)
14:00～17:00

傾聴と質問のとレーニング

第5回 人に伝わる話しかた



開催日 3/19 (日)
14:00～17:00

3分間スピーチトレーニング

はたらく女性の全国センター (ACW2)

主催 共育小グループ

申込みアドレス
Education@acw2.org

編集後記

■私の生活圏はとんでもない暑さです。私は屋根裏のない部屋で作業しているので、太陽光で熱せられた屋根と壁からの熱さに照らされます。最高室温は39度。雨でいっとき気温が下がった日は、舞い踊るほど気持ちよかったです。扇風機で暮らす理由の1つが、この喜びを感じたいからなのですが、いずれ諦めなければならない時が来るでしょう。地球温暖化が促進することに加担するのはもういやだ。そんな世界の仕組みを変えたいと思いながら、私はかもす通信を作成しています。

今号に原稿を送ってくださったみなさん、ありがとうございました。様々な声を読者のみなさんに届けることができうれしいです。

次号は10月に発行する予定です。あなたの原稿をお待ちしています。次号では原稿の他に、表紙に載せる画像も募集します！あなたの絵や写真、作ったもの（作品でも野菜でもなんでも）を撮影した画像を載せませんか。実はアイデアが尽きました。どなたか助けてー。今回は、私が撮影したガーベラを載せました。フラワーデモにもイメージが重なると思ひまして。（さのよ）

はたらく女性の全国ホットライン 0120-787-956

毎月0と5のつく日 5・10・15・20・25・30日

平日 | 18:00~21:00 土日祝 | 14:00~17:00

会員のあなたもぜひご利用ください。毎月5日はセクハラ集中相談日

住所 | 〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3階

TEL | 03-6803-0796 FAX | 03-6803-0726 e-mail | office@acw2.org

HP | <http://www.acw2.org> Twitter | <https://twitter.com/acw2org>

正会員年会費 | (性自認女性) 1口 3,000円 オプション5,000円 または 10,000円

生活困窮者2,000円

通信/サポート会員 | (男性も歓迎) 1口3,000円(何口でも可)

郵便振込 | 00130-1-669637

銀行口座 | 三井住友銀行 渋谷支店 普通8658522



感想など
会員のおたよりを
お待ちしております

こんな記事が読みたい、誰々さんに書いて欲しい、このテーマで書いてみたいなど、思い立ったらぜひ下記メールアドレス宛にご連絡いただけるとうれしいです。
※編集メンバーも募集中。ご連絡お待ちしております →→→ tsushin@acw2.org

2022年8月発行 第55号/編集・発行 はたらく女性の全国センターACW2

ホームページ、ツイッター、会員メーリングリストで毎日情報更新中